

事務事業名	市有地(土地区画整理完了後の旧保留地) 処分事務				担当	建設部 区画整理課 管理係	
政策名	G	効率的で市民にわかりやすいまちづくり			電話番号	0285-83-8155	
施策名	4	財政の健全化			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ	
法令根拠	真岡市が施行する土地区画整理事業保留地処分に関する規則					<input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 平成14年度~)	
予算科目	1. 一般会計	8. 土木費	4都市計画費	2土地区画整理費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(年度~ 年度)		
事業概要	西真岡第二、久下田北部、東光寺の各土地区画整理事業において公売したが、事業完了までに売却できなかった保留地を区画整理関連市有地(普通財産)として処分している。 ・西真岡第二地区 2区画 ・久下田北部地区 5区画 ・東光寺地区 2区画						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段(主な活動) 22年度実績 物件情報を広くPRする。・現地説明会及び現地案内 ・産業祭における広報活動 ・新聞広告掲載 ・住宅情報機関広告掲載 ・ホームページ掲載 23年度計画 物件情報を広くPRする。・現地説明会及び現地案内 ・産業祭における広報活動 ・INもあか掲載 ・住宅情報機関広告掲載 ・ホームページ掲載	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移							
	名称							
	ア	新聞等掲載回数	回	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
	イ	その他活動回数	回	3	3	3	3	3
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 未処分の市有地	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移							
	名称							
	ア	未処分市有地公売額	千円	160614	90625	95815	117194	73812
	イ	未処分の面積	平米	3916	2293	2964	3633	2363
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 市有地の完売	⑦成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移							
	名称							
	ア	土地売払い収入額	千円	63458	46645	0	0	43382
	イ	売払い面積	平米	1623	1235	0	0	1270
④結果(どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) 自主的・自立的な財政運営の確立	⑧上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移							
	名称							
	ア	市有地完売達成率	%	81	90	90	83	90
	イ							

(2) 総事業費の推移		単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	2,515	3,907	1,095	982	0
		事業費計(A)	千円	2,515	3,907	1,095	982	0
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	0
		延べ業務時間	時間	384	384	384	384	0
		人件費計(B)	千円	1,609	1,604	1,558	1,639	0
		トータルコスト(A)+(B)	千円	4,124	5,511	2,653	2,621	0

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か? いったいどんな経緯で開始されたのか?	土地区画整理事業で造成した公売保留地の未処分分を継続して処分している。
②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	近年の社会経済情勢の著しい変動に伴う地価の下落が続いており「地価の下げ止まり」が予測できない状況であるため、宅地購入希望者の買い控え傾向が見られる。
③この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	議会からは「値下げをしても早期に処分すべき。」という意見が出されている。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 土地区画整理事業により造成した優良宅地を市民に供給するため、市有地の処分を実施する。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市有地(普通財産)を優良な宅地として供給するための処分は妥当であり早急に推進しなければならない。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 土地区画整理事業完了後の未処分分が対象である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 公売のPR活動を中心として公衆及び不動産業界と連携し事業を展開している。 民間の不動産物件との競合に負けまいよう随時(毎年)不動産鑑定を実施している。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 市有地の処分が著しく停滞する。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 市有地処分に係る広告宣伝費と不動産仲介手数料、不動産鑑定料である。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限の事務量であるため、削減はできない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 受益者負担はなし。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							